小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表

法人名	医療法人社団 洛和会	代表者	矢野　一郎
事業所名	洛和小規模多機能 サービス伏見竹田	管理者	宇野　友浩

法人・事業所の特徴	同会においては市内で5番目、平成26年4月にここ竹田・住吉学区で初めて小規模多機能サービスとして設立。「地域に頼りにされる施設」をモットーに日々取り組んでおります。毎日の機能訓練の実施や定例の行事を実施し、ご利用者様に楽しんで頂けるよう取り組んでいます。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	1人	人	人	1人	人	3人	人	5人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の 確認	身体拘束・虐待に関しての研修参加や職員個人が気付けるシステム、また他職員からの指摘が言いやすい職場環境を作る。	身体拘束・虐待・人権に関する研修は2回実施が出来ている。また自身を振り返りシートの提出も行って検討した。	自己評価を確認させて頂き、事業所全体で取り組んでいることが分かる。	意見を出し合える環境作り。 利用者の在宅での情報を密にして必要時には地域包括への相談や連絡を行う。
B．事業所の しつらえ・環境	現状で開催が出来る行事やイベントを取り入れ利用者処遇の改善を行う。	季節の飾りもの作成やその後の展示などを行い、作品を通して季節感を感じて頂く工夫を行えた。	コロナ禍でなかなか難しいと思いますが、できる範囲のことは、されていると思います。	施設の見学や、体験利用者さんに関して、対応方法を厳守して施設内部のしつらえ、環境を実感して頂く。
C．事業所と地域の かかわり	コロナ禍であり、外部との関わりが難しい。今後は地域との関わり方法や相談などが気軽に行えるような関係性を作る必要がある。	地域との行事などには参加や招待が出来なかった。認知症サポーター講座はWEB参加で参加が出来た。	外部との関わりが難しい状況であるため、仕方がないと思われる。	連絡協議会などWEB機能が整ったため、連絡協議会や認知症サポーター講座などには参加し地域の役割を果たす。
D．地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み	地域で過ごしているうえで散歩に出かける機会を作る。	コロナ禍により、施設外への散歩には出かけることが出来なかった。施設敷地のみで日光浴程度過ごして頂いていた。	特にありません。	在宅生活継続のため、通所や訪問援助の充実を図る。
E．運営推進会議を 活かした取組み	運営推進会議が開催出来る工夫を行い、地域としての役割を目指す。また管理者以外の参加にも配慮する。	運営推進会議の参加者が集まっての会議の開催が出来なかった。電話連絡での対応で情報提供や情報収集を行うのみであった。	WEBなどの活用で運営推進会議が出来ればよいのでは、ないでしょうか。	運営推進会議が開催できる時期には速やかに開催し地域の役割を目指す。
F．事業所の 防災・災害対策	地域の社会資源の施設として地域の防災訓練に参加することで、非常災害時には協力し合える関係性を深める。	非常災害発生時の訓練は定期的に実施行えている。地域の防災訓練には参加が出来ていない。	今後地域と協力し合える仕組みを一緒に作れたらよいと思います。	非常災害訓練には、訓練の参加行ったことが無い職員が参加できるようにシフトを組み訓練を行う。